

多様化する課題共有

東北地連女性協定期大会

3月1日、東北地連女性協議会定期大会を開催した。現地（盛岡市・プラザおでっこ）およびオンラインを併用した形式で実施し、各単組の現状や課題に

ついて率直な意見交換を行った。また、慢性的な人員不足や業務負担の増加により、賃金面の改善のみでは解決できない職場環境の課題が浮き彫りとなった。

大会では、各単組からの一年間の取り組みおよび労使交渉の状況について報告があった。若手社員を中心としたベースアップや一時金の改善、住宅手当や諸制度の見直しなど一定の前進が見られた一方で、ベアを獲得できなかった事例や掛率の減少など、厳しい結



果にとどまった単組もあった。また、慢性的な人員不足や業務負担の増加により、賃金面の改善のみでは解決できない職場環境の課題が浮き彫りとなった。さらに、育児・介護と仕事の両立支援や制度改正への対応、メンター制度の導入など、女性が安心して働き続けるための環境整備に関する取り組みも報告された。一方で、女性組合員の減少や若手社員の退職により、女性協活動の継続が困難となっている単組もあり、組織基盤の強化が共通の課題として認識された。

また、ハラスメント対策や制度改革への対応、意思決定層への女性参画の促進などについて意見交換を行い、各単組の事例や課題を共有した。成功事例の共有を通じて、今後の取り組みの参考とすることを確認した。

働く環境や社会情勢が大きく変化する中、課題は一層複雑化・多様化しているが、女性が安心して働き、その能力を十分に発揮できる職場環境の実現は共通の目標である。

定期大会で得られた知見と連携を活かし、今後も各単組が相互に情報共有を図りながら、課題解決に向けた取り組みを進めていきたい。

（東北地連女性協議会 議長 駒井晴夏）

働き方を考える

春を呼ぶ女性のつどい

九州地連女性協

3月14日（土）、九州地連女性協議会の恒例行事「春を呼ぶ女性のつどい」が福岡市で開催された。今回はコロナ禍前以来となる対面での実施に加え、オンラインも併用したハイブリッド形式で行われ、各地から多くの組合員が集った。



講演や座談会もあって充実の内容に

冒頭では、各単

組からの報告が行われ、ベリースアップなどの春闘結果に加え、女性ならではの働き方や各社の制度、休憩室の有無といった職場環境に関する具体的な情報共有がなされた。

続く講演会では、鹿児島県の洲上印刷株式会社代表取締役・門田晶子氏を講師に迎えた。門田氏は高校時

いた「ワークではなかった」という姿勢である。門田氏の話からは、「コミュニケーションや女性が自分らしく働き続けるためのライフワークバランスについて多くのヒントを得られた。また海外と日本、それぞれの経験を踏まえたジェンダーギャップに関する話題についても取り上げられ、組合員にとって考えを深める機会となった。日々忙しく働く中で「自分は自分ではない」という門田氏の言葉は、多くの組合員の心に響き、改めて自身の内なる在り方を見つめ直すきっかけとなった。

最後は座談会形式で、さまざまな経験を重ねてこられた門田氏に気軽に質問できる時間が設けられた。また会場にはお茶菓子も用意され、終始和やかな雰囲気の中で進められた。参加した組合員にとって、多くの学びと気づきに満ちた有意義なひとときとなった。（九州地連女性協 中俣美咲）